

自分を成長させる、未知な体験。



北浦区に在住。「なにか興味があると、やってみたくなっちゃう性分なんです」とはにかんで語る小倉さん。

若葉の眩しい季節がやってきた。黄色に輝く柔らかかな木立に薄紫色の藤の花が咲きそろい私たちの目を楽しませてくれる。田植えを済ませた水田では、かえるの合唱が始まった。大きく深呼吸をして、たっぷりの空気をたくさん吸って元気に生活しましょう！今回は四季文化館企画実行委員、なつかしの名画座企画実行委員で活躍する、北浦区にお住まいの小倉孝芳さん取材する。

楽しいことは とことんやろう

小倉さんはみのくれにボランティアとして、関わりを持つようになって一年になる。サラリーマン生活を終えて、時間に余裕が出来たので「何か自分にできることはないか？」と思っていた矢先、おみた Magazine で四季文化館企画実行委員の募集記事を読み、思い切つて応募したという。小倉さんは「実際に四季文化館企画実行委員に入ってみて最初は中々入り込めなかったが、月1回の集まりには積極的に参加し、雰囲気になれるようしている」と話す。

「また、映画好きな小倉さんは、なつかしの名画座企画実行委員会にも関わっている。「なつかしの名画座の実行委員にも所属してみても、名画座と同じ地区の方たちが足を運んでくれ、交流できるのがとても嬉しい」と話してくれた。小倉さん自身も映画が大好きで、月1〜2回映画館に足を運んでいる。「ふらっと行って観る映画で、素敵なものに出会う喜びがたまらない。映画は、世界に入り込んで観ることが出来るので素晴らしいと思う」と話す。「青春時代に観た映画は、すべていい思い出。どれもみな自分にとっての『なつかしの名画座』だった」と当時を振り返る。

音楽も好きな小倉さんは、会社のコーラス部に入部していた。「コーラスをやっているといいなと思ったのは、音の響きに魅力があり、ビッツとくるものがある。ハイモニーがそろって瞬間がとても楽しかった」と話す。転勤で茨城に来て、コーラスをやっている所があったので続けた。「音楽は大好きだが楽器は苦手だったので、声という楽器を利用した」という。

でも飛び込んでいく小倉さんは、転勤先の詩吟同好会に入部したことをきっかけに、二十六年間続けている。現在は水府流吟道会に所属し、小美玉市の文化協会祭や市民文化祭に出場し、詩吟を披露している。

小倉さんは休日には、家庭菜園で野菜作りもしている。都会生まれなので本を参考に試行錯誤しながら、野菜作りを楽しんでいるという。「じっとしていることが苦手で、色々な事に挑戦してみたい！雨で外出できない日は読書をしたりして、定年後はとも充実している。これからも趣味や人間関係を大切に、楽しんでいきたいらと思う！」と活き活きと語ってくれた。

(藤田佐知子)

四季文化館企画実行委員会
なつかしの名画座企画実行委員会

おぐら たか よし さん
小倉 孝 芳

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.47